子どもの姿「生きる力」

四日市市の子どもの今

平成２３年度から小学校において全面実施される新学習指導要領※では，子どもたちの現状をふまえ，「生きる力」をはぐくむという理念のもと，知識や技能の習得とともに思考力・判断力・表現力等の育成を重視しています。

本市においても，四日市市学校教育ビジョンのめざす子どもの姿として，引き続き「生きる力」の理念を掲げ，「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」の３つの視点で諸施策を推進しています。

※中学校は平成２４年度から全面実施

1　確かな学力

「確かな学力」とは，「基礎的・基本的な知識・技能」と「自ら学び考える力（思考力・判断力・表現力等）」を兼ね備えた総合的な学力をいいます。

平成２２年度は，基礎的基本的な力とともに，それらを活用する力や子どもの生活や学習の様子をはかり，「確かな学力」定着のための授業改善の方向性や家庭・地域との連携を探ることを目的とし，到達度検査等（小学校５年生において「国語」「算数」，中学校３年生において「社会」）を実施しました。これらの結果を分析したところ，これまで本市で実施してきた「到達度検査」や「全国・学力学習状況調査」の結果とほぼ同様の課題が見られます。

【小学校国語科】

正答率は全国平均に比べて，やや低い傾向にありました。特に，活用力・思考力に課題がある状況や記述力の弱さが見られました。領域別では，「言語事項」「読むこと」「書くこと」の領域においてやや低い傾向にあります。基礎的基本的な力に比べて，活用する力，中でも思考力や記述力の弱さは，日々の授業改善の中で克服すべき重要課題となっています。

【小学校算数科】

正答率は全国平均に比べ，やや高い傾向にあるものの，数学的な考え方や知識理解の観点に弱さが見られました。基礎的・基本的な知識・技能の習得はもちろんのこと，思考力や判断力，表現力といった知識を活用するために必要な力をいかに育成するかが課題であるといえます。

【中学校社会科】

社会科においては，どの分野・領域・観点についても，ほぼ全国平均と同じような傾向でした。中でも地理分野は，すべての問題が全国平均以上と大変良い結果でした。一方「社会的な思考・判断」については，やや全国平均を下回っており，社会的事象の意義や特色，相互の関連を理解したり考察したりすることがやや苦手であることがわかりました。

今後は，知識・技能を生かす力である「思考力・判断力・表現力等」の育成に向けて，問題解決的な学習や探究的な学習に取り組み，解決に至るプロセスを学ぶ活動を重視していく必要があります。そのために，「互いの考えを伝え合い，自らの考えや集団の考えを発展させる活動（学び合い）」を取り入れ，子どもたちが協働的に学ぶ学習活動を推進していくことが必要です。同時にこれらの学習活動の基盤となる，記録，要約，説明，論述などの言語活動についても発達段階に応じて行っていきます。

２ 豊かな人間性

四日市市では，自らを律しつつ，他人とともに協調し，他人を思いやる心や感動する心などを備えた子どもの育成をめざしています。

平成２２年度は，市内全小学校の６年生と全中学校の３年生を対象に，人権に関する意識調査を実施しました（北勢地域広域人権教育・児童生徒人権意識調査より）。この調査結果を分析したところ，これまで本市で実施してきた「全国学力・学習状況調査」の結果とほぼ同様の課題が見られます。

図１から，小学校においてほぼ７割の児童が，また中学校においてほぼ６割の生徒が肯定回答をしていることがわかります。また，小学校においては，全国平均よりやや低い傾向にあります。

図１　自分には良いところがあると思いますか

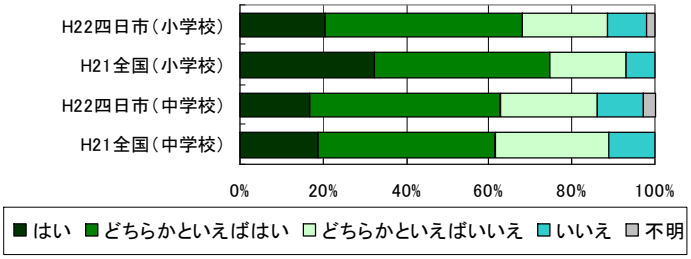
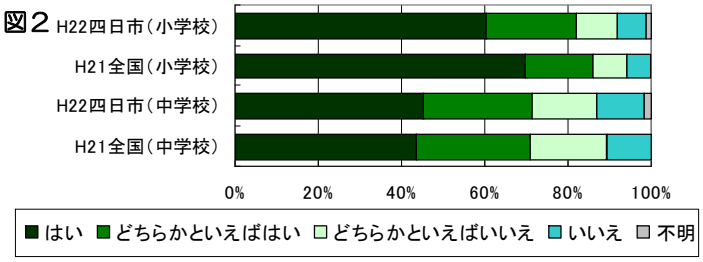


図２から，「将来の夢を持っている」と回答した割合は，小学校においてやや低くなっています。今後は，キャリア教育の一層の推進をめざしていきます。

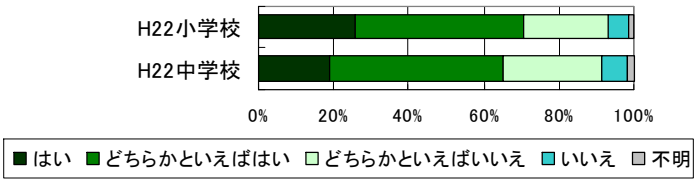
図２　将来の夢や目標を持っていますか



※全国のデータはH21年度全国学力・学習状況調査の結果より

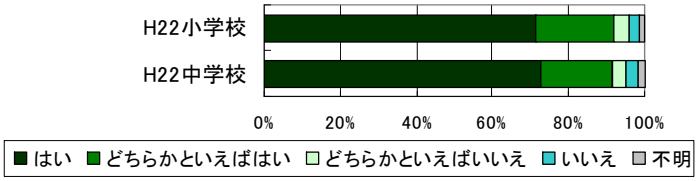
図３から は小学校において約７割，中学校においては約６．５割の子どもが，「失敗を恐れず決断する」と回答しています。また，図４からは，約９割を超える児童生徒が，物事を最後までやり遂げた際の達成感を味わっていることがわかります。

図３　難しいことでも，失敗を恐れないで挑戦していますか



これからも，質の高い授業やさまざまな体験活動（自然体験・社会体験・文化体験など）を通して，子どもたちの自己肯定感をはぐくみ，豊かな人間性を身につけるための指導体制や支援体制を整えることが必要です。

図４　物事を最後までやりとげて嬉しかったことはありますか



３　健康・体力

四日市市では、たくましく生きるための健康や体力を備えた子どもの育成をめざしています。

平成２２年度は，市内小学校の５年生と中学校の２年生を対象に，全国体力・運動能力調査（下記の９種目）と，生活習慣や運動習慣に関する調査を行いました。

小学校 ５年生	男子				女子			
	Ｔ得点 ※３	２２年度 四日市市	三重県	全　国	Ｔ得点 ※３	２２年度 四日市市	三重県	全　国
体力合計点（点）※２	46.5	51.29	52.84	54.36	47.1	52.41	53.42	54.89
中学校 ２年生	男子				女子			
	Ｔ得点 ※３	２２年度 四日市市	三重県	全　国	Ｔ得点 ※３	２２年度 四日市市	三重県	全　国
体力合計点（点）※２	49.7	41.41	41.08	41.71	50.3	48.46	47.69	48.14

※１　９種目：握力，上体起こし，長座体前屈，反復横跳び，２０ｍシャトルラン，５０ｍ走，立ち幅跳び，ボール投げ，持久走（中学校のみ）
※２　体力合計点：各調査種目の成績を１点から１０点に得点化して総和した合計得点
※３　Ｔ得点：全国平均値を５０として，それに対する相対的な数値

上の表から，全国の状況との比較において全ての数値が下回っています。中学校女子は平均並と言えます。子どもが目標を設定し，目標達成をめざして運動に取り組み，運動能力や体力を自ら向上させようという態度を身につけていくことが必要です。

次のグラフは，平成２２年度生活習慣や運動習慣に関する質問用紙調査（対象：小学校５年生・中学校２年生）の集計結果を全国平均と本市の結果を比較したものです。

図１から，子どもたちの生活習慣は，全国とほぼ同じ傾向にあるといえます。「早ね　早おき　朝ごはん」の啓発活動とともに，規則正しい生活リズムを向上させていくことが大切です。また，図２から，子どもたちの運動習慣についても，全国とほぼ同じ傾向にあるといえます。小学校では２時間以上スポーツを実施する時間は全国より少ない傾向にあり，今後，子どもが日常的に運動やスポーツに親しむ姿勢を育てていくことが大切です。

図１　朝食を毎日食べていますか

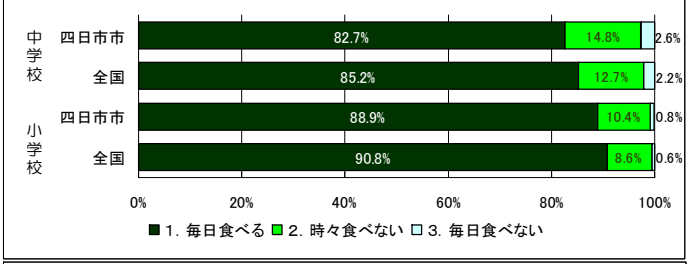
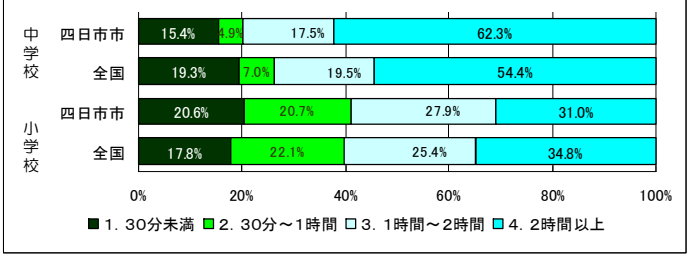


図２　1日のスポーツ実施時間



以上のように，四日市市の子どもたちには，進んで運動に取り組み，運動能力や体力を高めていく習慣を構築する必要があると考えます。また，生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに，健康意識，安全意識を高めていく必要があると考えます。

子どもの姿「共に生きる力」

四日市市の子どもの今

四日市市学校教育ビジョンでは，「生きる力」に加えて「共に生きる力」を備えた子どもを「めざす子どもの姿」としてとらえています。

「共に生きる力」をあらわす子どもの姿
◇ コミュニケーション力・・・他の意見を聴き，自分の思いを伝える力を身につけた子ども
◇ 互いに向上する人間関係・・・互いに切磋琢磨し，向上しようとする子どもたち

「共に生きる力」をはぐくむための視点である「互いに向上する人間関係」を築くには，他者を認め互いに尊重しあう態度や，自分の気持ちや考えを相手に適切に伝える力など「コミュニケーション力」の育成が不可欠です。各校･園では，これらの育成において，特に力を入れて取組をすすめてきました。

図１によると「学校が楽しい」と感じている子どもの割合は，小学校においては９１％，中学校においては８７％となっています。また，図２によると「いじめは絶対にいけない」と思っている子どもの割合は，小学校において９３％，中学校において８３％となっています。いずれの項目も，小学生よりも中学生のほうが低くなる傾向にあります。成長過程とともに複雑になる人間関係が，より豊かになるよう，今後も取組を進めていく必要があります。

図１ 「学校が楽しい」と感じている

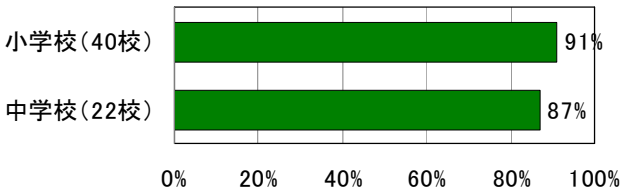
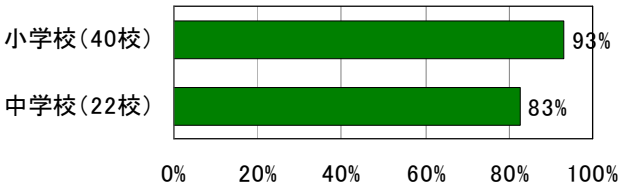


図２ 「いじめは絶対にいけない」と思っている



※上記データはH22 年度各学校のアンケート調査集計結果より

上記のような結果から，本市の子どもたちは，概ね良好な人間関係を築きながら学校生活を過ごしているものの，成長過程において，人とのかかわりに消極的になる傾向があると考えられます。今後も幼保小中が互いに連携しながら，子どもの成長や発達に応じた指導方法の工夫や体制の整備を図ります。